

武庫川総合治水対策の効果量（試算）

第34回流域委員会
資料2-4

		対策施設	効果量	主な試算条件	
流域対策	学 校	検討済	11m ³ /s	114箇所（流域内のすべての学校） オフサイト貯留（敷地内の降雨をグラウンドに集水し、オリフィス構造でピーク降雨をカットする）	
		検討済			
	公 園	検討済	2m ³ /s	80箇所（すべての公園127箇所から選定） 公園（開設）面積0.1ha以上（公園内のため池が公園面積の多くを占めるものは除外） 基本的にオフサイト貯留、大規模なものは地形状況によりオンサイト貯留（グラウンドに降った分だけ貯留）	
		今後検討			
	た め 池	①	58m ³ /s ~ 検討中	①39箇所 満水面積10,000m ² 以上、流域面積0.1km ² 以上、治水容量の総貯水量に占める割合80%以下 所有者が国、県、市、財産区、青野ダム流域以外、水深2m分を治水活用 ②満水面積5,000m ² 以上、流域面積0.1km ² 以上、青野ダム流域以外、水深1m分だけ治水利用	
		②			
	水 田	今後検討	0m ³ /s ~ 425m ³ /s	①数値化しない ②流域内の水田面積のうち80%、約5,600haを対象とし、雨水を約20cmの水位で貯留させる。	
		①			
防災調整池	今後検討	4m ³ /s ~ 12m ³ /s	①37箇所（県・市が所有している防災調整池） ②178箇所（すべての防災調整池）		
	①				
各戸貯留・雨水浸透型施設	今後検討	0m ³ /s ~ 9.72m ³ /s	①数値化しない ②流域内の50,000戸に浸透ますを設置 ③各戸に雨水貯留タンクを設置し、治水活用した場合を加える		
	①				
そ の 他 （駐車場、棟間、大規模開発）	今後検討	-	-		
	①				
河川対策	洪水調節施設	①結果として湛水	今後検討	0m ³ /s ~ 35m ³ /s+α	①採用しない ②上流域農地、掘削なし、108.3ha（13箇所）
			①		
		②公共施設・都市施設	今後検討	0m ³ /s ~ 522m ³ /s	①採用しない ②-1中流域公共施設、掘削16.4ha（5箇所） ②-2下流域公共施設及び民有地、掘削（民有地は地下貯留）107.9ha（6箇所）
	①				
	③河川施設	今後検討	42m ³ /s ~ 228m ³ /s	①中流域に1箇所設置、12ha、掘削有り ②中流域に設置、64.1ha、掘削有り	
		①			
利水ダム	今後検討	0m ³ /s ~ 317m ³ /s+α	①採用しない ②4つのダム（青野ダム：116m ³ /s、深谷池：未試算、山田ダム：12m ³ /s、千苺ダム：189m ³ /s）を2m水位低下→治水転用		
	①				
新規ダム		-	-		
河道対策		-	-		

※効果量は ①H16モデル降雨を対象とした数値である。（甲武橋地点、青野ダム有りのケースから各流域対策施設により流出抑制された流量を示している。）
②各対策施設の単独効果量である。
③現時点（H18.2.13）での試算値である。